

岐阜県の文化振興に係る懇談会（第1回）

【日 時】 平成 18 年 10 月 21 日（土） 15：00 ～ 17：00

【場 所】 県民ふれあい会館会議室

【発言要旨】

文化の「担い手」、「受け手」としての岐阜県民について

- ・他の地域の人には地元をよく言わないが、岐阜の人は岐阜が好きだと思ふ。山があり、川がきれいで、そこそこ街であるところが人間の営みにいい。
- ・他の地域の人と話をするとうまくわかるが、固有の資源をどうとらえているかが大切。「山がある」とポジティブにとらえるか、「山しかない」とネガティブにとらえるか。「山がある」なら、どう生かすかが重要。
- ・岐阜出身で、岐阜で活動している人は不遇だと思う。岐阜出身で東京にでて、東京で賞を取ると岐阜で有名になる。（県内の賞は）ステータス性があるという雰囲気を出すことが大切。
- ・岐阜の場合、県外で評価されなければダメという気がする。イタリアでは地域が地域のことを評価する。ドイツでは地元紙が地元の文化を評価する。
- ・日本で芸術活動をしているとギャップを感じることもある。生活レベルの高い人は多いが、文化に携わる人は少ないと感じる。
- ・独自の文化圏で大切にすると、オール岐阜県として取り組むものを分けて考える必要があるのではないか。
- ・創作音楽劇をやっているが、これは新しいものと古いものの融合である。7年間続けて、特徴といえば出演者全てが地元の人であること。地域のオペラでも主演級は全国的に有名な人を招聘するが、これはすべて地元の人でやっている貴重なものであり、常に満席になる。「粘る」というのも県民性の一つではないか。

文化における「ひとづくり」について

- ・「場」ができて「人」ができる。若い人が岐阜で活動できる、その雰囲気が大切ではないか。
- ・レジデンスまたはサロンのような場所、そしてサポートする人がいること。受け入れる器があることが大切であり、そこでのディスカッションでお互い刺激を受ける、これが「場」。交流には地域に住む人のサポートが必要であり、そこから地域の一体感が生まれる。そこには全国から人が集まるようになる。
- ・「拠点」といっても、県が考える「拠点」とアーティストが考える「拠点」は、違うのではないか。
- ・「文化」は人づくりである。若い人を育成するのは指導者次第。文化を育てるということは指導者を育てるということ。岐阜県はこれまで指導者を育成してこなかった。

人事異動で指導者が替わってしまい、部活が衰退することがある。県はスポーツには力を入れるが、文化を評価する人がいない。

- ・支える人材、サポートする人を評価するシステムも必要ではないか。
- ・小さい時から多くの子が学ぶことができれば素晴らしい。文化は知らないと、それで終わってしまうので、子どもの時から経験することが大切だと思う。一流の文化に触れる機会を、県の支援で設けることができればいい。
- ・活動のきっかけは、好きだったということと良い指導者に巡り会えたこと。それから、いろいろな分野の人から刺激を受けた。芸を磨くということは、個人の努力や自覚が大切で、自分でやるのが芸術。ただ、最初は嫌でも開眼する場合もあり、「きっかけ」は大切だと思う。

岐阜県の地域性、地域の文化資源について

- ・地歌舞伎の分布や円空仏の分布を調べると、地域に根ざしたものが見えてくることがある。それぞれの資源ごとに分布は違うので、いろいろな分布を調べることで地域の見直しができるのではないか。
- ・我々の世代は、地域性より同時代性を感じる。テレビ番組のヒーローもののように小さい頃に夢中になったものは、全国共通する話題だが、世代が違くと話題が合わないことがある。出身地域が違うという理由で、話題が合わないということはない。
- ・地域性を出さないのが岐阜の県民性かもしれない。地域性を生かすということは、地域を把握すること。ただ、地域性を他の地域と比較しても意味はない。地域性は掘り起こしすぎてもダメで見守るものではないか。
- ・提案だが、デジタルアーカイブで誰でも地域の文化資源にアクセスできるようにしたらどうか。

地域の人材の活用について

- ・学校の鑑賞会などには地域のプレイヤーを優先するようにしたらどうか。
- ・(県内で活躍している人を登録した)「アーティストバンク」があるのに県外から講師を呼ぶケースが多い。現場が県内の人材の活用を考えていない。
- ・「アーティストバンク」をより多くの人に知ってもらうためには、学校や美術館などでPRすることも考えられる。しかし、ユーザーの利益と登録者の利益が合えば、自然に広がるものだが。
- ・現在は、登録した人から選ぶというより、この人がいいから登録してくださいという後付方式になっている。また、作品の制作時期などの関係で日程が折り合わないことがある。

その他

- ・これからは行政がどれだけ文化にお金を使うか議論する時期に来ているのではないか。